

(様式6-3)

研修等 報告書

平成31年 3月 1日

三田市議会議長 厚地弘行 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	無会派	代表者		印 ■
		議員名	小山裕久	
参加者氏名	小山裕久			
講演会等研修名	人口減少時代における地域政策			
研修事項	・そんなに難しくない人口減少対策			
日 時	31年 2月 18日 (月曜日)			
場 所	東京都中央区京橋1-7-1戸田ビル			
所 見	別紙に記載			
添付資料	・ そんなに難しくない人口減少対策 ・ 当日の写真			

6 添付書類 (講演会内容のパンフレット等)

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、参加者氏名は不要)

平成31年2月18日月曜日の研修に参加いたしましたので、以下の所見をのべさせていただきます。

小山裕久

人口減少時代における地域政策として、講師、牧瀬稔氏より講義をうけてまいりました。牧瀬氏は関東学院大学法学部地域創生学科准教授のほか沖縄大学、法政大学などで講師も兼ねられており、今年度は北上市、中野氏、甲斐市、戸田市、春日部市、東大和市、新宿区東大阪市、西条市の政策アドバイザーとして地方創生、人口減少対策に関わってこられました。三田市においてもこれから人口減少は重要な問題であり、他自治体の成功事例や視点について直接講義を受けられ有意義であったと感じています

三田市は2016年国勢調査結果によると112、691人5年前と比べるとマイナス1、3%の減少であった。総務省人口問題研究所がその前回の国勢調査から基づき予測した人口より1、155人少なく予想より人口減少のテンポが速くなっている結果がうかがえた。また2045年にはさらにマイナス21、3%減少し約8、9万人となる見込みである。これは三田市に限ったことではないが、自分の街が今後どのような将来人口推計になるかは、しっかりと把握しておき、これから10年、100年と持続的に運営できる自治体経営を考えて行かなければならないとの事であった。

そのためにはどのような視点で住民を増やしていくのかを創造することが大切であり人口の増加は自然増か社会増しかなく、どちらもターゲットを絞って考えなくてはならない、議員として小さな危機に気が付かないと、気が付いた時にはゴーストタウンになってしまっているとの話がありました。また移住定住の話や出生数の増加の視点も多く話されていましたが、私が特に関心を持った話として、死亡の原因は老衰によって死亡する「自然減」ばかりではなく、例えば5～14歳では不慮の事故と悪性新生物が死因の原因であり、15歳以上は自殺もふえてくる、この不慮の事故や若者の「癌」、自殺等を少なくしていくことも、人口の自然増を高めることにつながり、議員としてのたいせつな仕事でもあるとの話は、私自身しっかり施策を考えていくべきであると感じました。

今回の講義をうけ、市民の皆様の福祉の増進、幸福感の増進を今まで以上に目的を持ち活動しないとの思いが感じられた研修でした。

以上

地方議員研究会

そんなに難しくなく人口減少対策

関東学院大学法学部地域創生学科

牧瀬 稔

makise@kanto-gakuin.ac.jp

<https://www.makise.biz>